

日本屈指の 芸術家たちが愛した 五浦の風景へ

(茨城県・五浦海岸)

茨城県・北茨城市。正直いって、あまり有名なエリアではない。でも実際に訪れてみると目からウロコ！五浦海岸には、日本が誇る偉大な芸術家たちも愛した、風光明媚な場所が待っていたのだ。



名前は知っているけど、なにをした人なのかは詳しく知らない。そういう偉人は多い。今回、五浦海岸を訪れるまでは、岡倉天心もそんなひとりだった。東京美術学校現・東京藝術大学の創設者であり、日本画の巨匠、横山大観の師でもある人物。

そんな岡倉天心が、晩年に居を構えていたのが、この五浦海岸。海に面した岡倉天心の家は、いまでは一般に開放され、絶好のビュースポットにもなっているのだ。実際に訪れてみると、霧に包まれた奇岩群がとて神秘的な風景を生み出している。



海岸線に突如として現われる亀ノ尾層。白い層と灰色の層が交互に積み重なっているのは、長い年月をかけて砂や泥が固まったため。かつてこの辺りは深い海の底だった。ほかにもガスハイドレート^①の化石が生み出す奇岩群も。

ご当地のマドンナが
案内する最旬の外遊びガイド

日本全県 アウトドア巡り



その17

茨城県

今月のマドンナ

いばらき夢ガイド
大高牧子さん

生まれも育ちも茨城。夢ガイドとして、各種観光系のイベントでナビゲーターを務めているだけあって、地元の知識も豊富。今回の取材でも茨城豆知識を披露してくれた。



古代の地層に触れる
五浦海岸を散策



五浦六角堂 ☎0293(46)0766
入場料300円 月曜定休

絶景の中に佇む 岡倉天心の 終の棲家

鮑料理店を改装したという岡倉天心の家。五浦海岸は鮑の名産地なのだ。岡倉天心が設計した六角堂からは奇巖群を見渡せる。希代の芸術家が庭として愛したのも納得の美しさ。東日本大震災の津波で一度流されたが、現在は茨城大学の手によって復元されている。



漁協直営だから新鮮！ 生しらす丼は大人気



大津漁港のすぐそばにある漁協直営の食堂。地元で獲れた新鮮なシラスをたっぷり使った生しらす丼はプリプリ食感がたまらない(賞期限定。1330円)税込。敷地内には物産店もあり、魚介類などを購入できる。



大津漁協直営市場食堂
◎茨城県北茨城市関南町
仁井田789-3
☎0293(30)2345 水曜定休

北茨城生まれの 野口雨情は 47都道府県制覇の 先輩だった！



『十五夜お月さん』『赤い靴』などの童謡の作者として有名な野口雨情も当地の出身。現在も生家が残る。実は野口雨情は童謡を広めるため47都道府県を巡って歌を作っている。ある意味、当連載の大先輩！



野口雨情記念館 ☎0293(43)4160 入館料300円 月曜定休
野口雨情生家 ☎0293(42)1891 入館料100円 無休

豊かな自然を舞台にした 茨城県北芸術祭も開催

9月17日～11月20日に開催される「茨城県北芸術祭」。茨城県北6市町を舞台に、国内外で活躍するアーティストの作品が展示される。

茨城県北芸術祭 <http://kenpoku-art.jp/>

KENPOKU
ART 2016
茨城県北芸術祭

いま茨城はサイクリングがアツイ！



霞ヶ浦湖畔の公道を使用し、開催する、自転車耐久レース「かすみがうらエンデュロ」。廃線を利用したつくばりんりんロードと、霞ヶ浦サイクリングロードを繋ぐための整備が行なわれており、完成すれば約180kmにもおよぶサイクリングロードに！



偉大な芸術家が愛したのも納得の、日本の美があった。実はここ、ちょっと隠れた名所なのだ。今回のマドンナ役である大高さんは、生粋の茨城っ子だが、五浦海岸を訪れるのは初めてだそう。「花貫溪谷とか山のほうは結構行くんですけど、海沿いにこんな良い場所があるのには知らなかったです」と、風景に見入っている。

この海岸は茨城県北ジオパークのひとつでもあり、地層という形で地球の歴史を思いを馳せることができる。今回のようにウォーキングでまわってもよいし、自転車ツーリングのコースとしても楽しそうなのだ。

正直、最初は「五浦海岸？聞いたことないな」とか思って、甘く見ていた。でも実際に訪れて、自分のそんな浅はかさを恥じた。日本にはまだまだ素晴らしい場所がたくさんある。行ってみなくちゃわからない。五浦海岸の風景はそんな旅の醍醐味を思い出させてくれた。



海だけじゃない！
 苔と新緑が青々と輝く
 美しき花貫溪谷へ



マイナスイオンと
 美味しい水！

橋の上から滝を眺めながら、美味しい水をいただく。心も体もリフレッシュ。真空断熱ストローボトル FHL-400(左)、FHL-550(右) / 0.4ℓ(左)、0.55ℓ(右) / オープン価格



「茨城は海だけじゃなく、山のほうもとっても綺麗なんですよ」。マドンナ役の大高さんが、そう言って連れてってくれたのが、この花貫溪谷という場所だった。青々とした苔が美しい溪谷の上に、約60mの汐見滝吊り橋が架かっていて、モミジの木が天然のトンネルのように覆い被さっている。モミジの時期になると日本全国から観光客が訪れる名所だが、ひっそりとした新緑の時期に来ると、独り占めできて楽しいのだ。



溪谷沿いの岩に腰を下ろして、川の音を聞きながらのブレイク。「苔ってモサモサして可愛いですよえ」と大高さん。女子ウケも良いみたい!? 真空断熱フードコンテナー JBI-382 / 0.38ℓ / 4500円

保温力アップの
 専用ポーチも

ちょっと遠出をするときには、このフードコンテナーポーチが便利。取っ手が付いているので持ち運びやすく、断熱構造なので、保温力もアップする。REB-002 / 2000円



美しい苔を眺め
 ホッとひと息